

1. 学校教育目標

- | |
|--|
| ①常に成長を目指し努力し続けられる人物（自立）
②世界で活躍できる能力を有した人物（挑戦）
③謙虚に自分を見つめ喜んで奉仕できる慈愛に満ちた人物（奉仕） |
|--|

2. 本年度に重点的に取り組む目標・計画

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自らを律し、他と協調し、他を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を持った生徒を育てる。 ・6年間で大人になるための準備期間として、責任ある市民として自己決定・自己判断ができるよう論理的に突き詰めて思考する力を育てる。 ・主体性を持って行動できる生徒を育て、学習面・生活面でも他律から自律へ切り替える。 |
|--|

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
学力形成 学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶとは覚えることではなく考えること」をテーマに、教科指導形式を「講義形式」から「対話形式」へと変革に取り組んだ。 ・グローバル社会への対応の一つとして、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの強化のため全学年でネイティブの授業を実施した。 ・PC やタブレット端末を用いて、教員・生徒双方向での教材・課題の配信・提出、各生徒の進捗状況管理、グループでの意見交換など様々な ICT を利用した教育を実施した。
人間形成 生活指導 各学年の取組 自治活動 学外活動	グローバル社会で必要とされるスキルを育むことを目的として、以下の取組を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取組 中学1年 国際理解教育、SDGs、中学2年 ボランティア、キャリアプログラム、中学3年 研究論文、高校1年 『進路から進学へ』、高校2年 『学校のリーダー』、と精神的な発達段階に合わせて活動した。 ・生徒の自治活動 生徒会・委員会・クラブ・体育祭・学園祭・など生徒が主体となって運営した。 ・学外活動（他流試合） 教育の柱である学外交流活動につきましてコロナ禍においても300を超える活動に生徒たちが挑戦した。日本数学オリンピック

	<p>ク、日経ストックリーグ、物理チャレンジ、ハーバードグローバルエッセイコンテスト、日本倫理・哲学グランプリなど様々な分野で活躍した。</p>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を定期的実施し（オンライン開催も含めて）、生徒の状況をより良く知ってもらい、学校の方針についての理解も深めてもらった。 ・学年通信を月1回程度発行し、連絡事項の徹底、生徒自らの言葉で語る行事報告など学校と家庭の結びつきを強めた。 ・ホームページにて、一般の方々にも学校のことを理解してもらえよう学習面・生活面について学校の紹介を行い、常に最新の情報をトピックスとして発信している。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校管理システムにより生徒の登下校の状況を把握し生徒の安全を図った。 ・いつ起こるかかわからない災害への備えとして、避難訓練を4月と9月に実施した。 ・年3回の施設点検実施により施設の保守を行い、安全管理を行うとともに快適な環境整備を実施した。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・8月と3月に全教職員を対象とした校内研修を実施した。中学入試から大学入試に至るまでの校務主任を講師とした研修、外部講師を招き、グループに分かれての学力形成、人間形成に関するワークショップを実施するなど、多岐に渡る研修の機会となった。 ・Google Certified Educator LEVEL1 及び LEVEL2 の取得を目指した研修を8月に実施した。 ・新任教員に対し校長・管理職・校務主任・学年主任・担任を講師として年間にわたり新任教員研修を実施した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大が続いていたが、教育効果を考慮し、体育祭、彩羽祭（文化祭）について、日程を変更せず、来場者を制限して開催した。宿泊研修に関しては、中学1年 HR 研修は中止、中学2年宿泊行事は日程を変更して実施、修学旅行は予定通り実施と、その時期の感染状況を踏まえて柔軟に対応した。合唱コンクールは中止とし代替プログラムを実施した。国際交流については、ジャパンメトロポリタン模擬国連大会をオンラインと対面のハイブリッド方式で開催したが、海外研修・留学プログラムについては全て中止とした。

4. 総合的な評価結果

特別教室を含めてすべての教室にデジタルホワイトボードとプロジェクターを設置し、ICT 化の推進を更に加速させた。従来の一人一台の端末保有との相乗効果で、授業と家

庭学習の充実が図られ、その結果、飛躍的な進学実績の向上につながった。また、人間形成の面でもコロナ禍における学園祭等のイベントや部活動の実施方法などを生徒自身に考えさせることにより、生徒の主体的な成長につながった。学外活動への挑戦もこれまでの実体験を伴うものに加え、コロナ禍で加速したオンライン実施のものへの参加が増え、以前にも増して多くの生徒が参加し、貴重な体験を得ることができていた。